

加計学園疑惑「火消し」？

写真は朝日新聞 5 月 27 日朝刊掲載の風刺漫画。さすが針すなおさん。どう考えても変なことが続いている。親分が悪いことをしていないのなら。「火消し」などする必要もないのに。このところ、菅官房長官というより、平成の火消し役改め「消防長官」として活躍中である。



26 日の日経新聞朝刊 1 面「春秋」にも注目。

— これで官房長官のいう「怪文書」から、最初の 1 字が取れることになるのか。特区での獣医学部の開設をめぐる「総理のご意向」などと記されたペーパーのことだ。文部科学省の前の事務次官が記者会見し、自分が担当課から説明を受けた際に示されたものと認めた。

▼鑑定団風の「本物に間違いございません」の宣言である。政権の看板である岩盤規制の打破策だ。公平性を保つとともに、手続きに落ち度があってはならない。それなのに首相の親友がトップに就く法人が学部新設の方向となり、認可へ圧力が加かったのだという。会見で「疑問を感じつつ仕事をしていた」と述べている。

▼奇妙なことに数日前から、前次官が東京・新宿の風俗関連の店に出入りしている、との情報が流れた。前次官も事実を認めて、一部の新聞には「昨秋、首相官邸の幹部に呼ばれ注意された」と明かしている。まさか、平清盛が都に放ったという「かむろ」のごとき密偵が、東京の盛り場をうろついているわけでもあるまい。

▼首相や周辺は学部新設の件で「指示」を否定する。規制緩和は今後の成長に欠かせぬ政策であるだけに、経過を開示して透明性を高める必要があるだろう。折しも首相や側近の身は G7 サミットでイタリア・シチリア島にある。ローマにも赴き、嘘つきは手が抜けなくなるという彫刻「真実の口」で潔白を証明してはいかがいか。

朝日新聞 5 月 25 日夕刊「素粒子」—もしそれが「怪文書」なら文科省の行政も奇々怪々。前文科次官が「ご意向文書を示された」。一強の堤に一穴開く。☆その前次官が出会い系バーに出入りの報道。個人の醜聞に矮小化しようとするか。「共謀罪」後の監視社会恐ろし。☆「共謀罪」に「表現の自由」に。国連特別報告者の相次ぐ懸念に政権は反発。そんなに心配されていることを知る。

(2017 年 5 月 31 日)